

京都教区時報

特集—京都教区ヴィジョン作り たたき台
小教区の貢—西院教会

第68号

発行所

京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室 (Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可



私は、日本教会の公式教皇訪問を主目的として5月12日ローマに向い、日本司教団全員と共にその目的を果して6月6日パリ、ソウルを経由して帰国いたしました。

今回のローマ聖座訪問は公式のもので、アド・リミナと呼ばれ、國によつて違いますが10年に一度、または5年に一度おこなわれるものであります。

地上におけるキリストの代理者ペトロ(ローマ司教)の後継者とのキリストにおける一致の確認、連帶の強調、コンムニオンだと思います。

神の民(教会)の大黒柱と云われる聖ペトロ。聖ペトロの墓参、教皇への個人的なならびに団体接見が主要なプログラムでありました。

各司教は、5月19・20日にかけて一人約15分、教皇に個人的に会見し、引き続いで全司教(18名)が、司教団として会見いたしました。この際、日本司教団会長の里脇権機卿が代表して挨拶を述べ、昨年12月13日に決定した「教皇の訪日招聘」にも触れました。(期日については全く白紙、今年は全く不可能)教皇は、これらに対して暖かい、信仰溢れるメッセージを賜り、「今日、日本の教会の

牧者である皆さんを聖ペトロのお墓の傍らにお迎えして多くの想いが私の胸に溢れて来ます」と教皇公式訪問の意味、前々任者バウロ六世が深められた日本各界代表との交流、それを感謝をこめて大事に継承したい。私司教の役職は「信仰」に奉仕する役職である。先ず、私共からの信仰に生きるよう努め、分ち合うべきものであること。その後の祈りの必要性、観想的風土に恵まれた日本の地方教会としての靈的貢献など。若者、子供のカテケジス(信仰教育)をガッチャリと家庭において…。

終りに、日本へ、特にあなたの方の愛する司祭、修道者、神学生、信徒の皆さんに、よろしくと云つて祝福を下さり、又日本に向つて司教団も一緒に祝福を送りました。

このほか、私達は普遍教会のため地方教会へのサービス役を果している、特に関係の深い「福音宣教聖」にロッシー権機卿とそのスタッフを訪れて日本教会の報告をしたり、「諸宗教連絡聖」のビニエドリ権機卿に昼食をご馳走になつたりしました。(後者権機卿は6月15日に急死されました)

又、団体で個人で、京都教区に働く男女修道宣教会の代表を表敬訪問したり、招待したりして感謝と協力を願いして参りました。この間、予定通り行かなかつたり、色々な事がありました。お陰様で元気に帰国出来ました事を、謹んで、キリストにおいてお礼申し上げます。

京都司教 田中健

バ
バ
さま
に
お会いして

京都司教 田中健

▽7月16日(④) カルメル山の聖母の祝日 女子カルメル会でご聖体を中心とした祈りの一日(京都女子カルメル会)

▽7月26日(①) 京都・教会学校教師会(河原町)

▽8月6日(木) 主の変容の祝日

▽8月15日(④) 聖母被昇天の祭日

▽8月20日(木)~22日(④) 日本宗教青年者会議(金沢)

▽8月23日(木)~25日(④) 80年全国カトリック青年大会(長崎)

▽8月25日(木)~29日(④) 京都神学ワークショップ(ノートルダム女子大学)

▽9月1日(木) ライムンド田中司教の靈名の祝日
京都教区司祭評議会(河原町)

▽9月2日(火)



教区短信

- ▽9月10日(木) 日本205福者殉教者の記念日
- ▽9月11日(木)~12日(金) 宣教司牧司教委員会(長崎)
- ▽9月14日(木) カトリック移住の日
- ▽9月15日(木) 敬老の日
- ▽9月15日(木) 大津教会40周年

信徒使徒職養成コース

申し込み書・案内書は各小教区にお送り

します。主任司祭におたずねください。

信徒使徒職養成コースの第一回基礎コースは、去る五月に行われ、大変好評の

中に、参加者一同熱意に燃えて終了しま

した。基礎コースを終えた人とは、さら

に進んだ養成を期待して次回のコースを待ち望んでいました。それに応えて京都カトリック教理センターでは信徒使徒職養成コース第二回を左の様に企画しています。

第二回 みことばと典礼コースI

日時 10月10日(日) (体育の日) 午後1時

10月12日(火)

※注意 最初の計画では9月13日と予定し、そう発表していましたが、場所の都合で日時がかわりましたので、ご了承の上、まちがえぬよう気に付けてください。

宇治カルメル会黙想の家

〒611宇治市木幡赤塚55
(0774-31-8503)

費用 1万2千円

定員 20名 (基礎コース終了者を優先いたします。)

申し込み締切り 8月31日

(申し込み全員が受け入れられるとは限りませんので、9月10日までに申し込み者にお返事します。ご了承ください)

申し込み先・問い合わせ先

京都カトリック教理センター

606京都市左京区仁王門通新高倉西入ル

(075-752-0057)

ベトナムハウスより

御所

「コンニチワーライラシャーイ。」

梅雨空の鬱陶しさを払いのけるような人なつっこい笑顔と、明るい声が私達を迎える。所長のかーティ師と四、五人のベトナム青年が、それぞれシャベルを手に、ハウス前の整地に余念のない最中。2月開設当時一棟さりだつたプレハブは、作業場一棟、娛樂室、面接室一棟を加え、5月訪問時にはまだ荒地のままだつたハウス横の敷地は立派な野菜畠に早変わり。

カナダ永住組の一人、ラム少年が京都見物の折ホーリムスティイが機縁で顔馴染みになつたK姉は「何度も生木を裂くような思いを重ねて別れてゆく人達の姿は涙なしでは見られなかつた」と貴泣き。

嬉しい話題としてはブイさんの出産、6月9日ベ・ハウスの赤ちゃん第一号ナオミちゃんの出生。ブイさんは16才ながら健康で美しいわが子を腕に誇らしげだった。出産のためにいた病院でもたくさんの方々によくしていただきましたよ」とはカ師の談。一方戦乱下に逃げ惑つてゐるカンボジア難民を思うと胸が痛む。

8月中旬に出産の予定。そのうちの一人に、「生れてくる赤ちゃんに、ベトナム語を教えるつもり?」と尋ねたら「男の子がほしいの。私の子はカ神父さんのようになつてほしい。もうベトナム語は教えないつもり」という返事がかえってきた。子どもたちこそ私達の、世界の希望。

平和を築いてゆく子どもたちであつてほしい。小学生3名は畠傍南小学校に通い始め日本語の上達ぶりもめざましいとは入が決り、登校日を待つばかり。又、九条、高野、小山3教会合同の8月子どもSr渡辺の報告、中学生4名も地元中学編キヤンブにベ・ハウスの子どもたちが招かれ、指折り数えて、その日を待ちわびている。

妊娠婦、病人、子供以外の大人は職を得て、3人の子の母、タオさんも電動ミシンを使って製縫工場の下請け仕事。若い青年達は近くの合板会社、自動車修理工場、ガソリンスタンド等で元気に働いている。2人の青年の働きぶりを見ようとカ師の案内で合板会社に出かける。自分の息子達にでも接するような中老の従業員たちとのなごやかな話のやりとりを眺めながら、アジアの友が日本に永住出来ないものかと考えた。



申込み、問い合わせは
津市南中央2-18 (052-27-1317)
津南カトリック教会
ジャクソン神父 まで



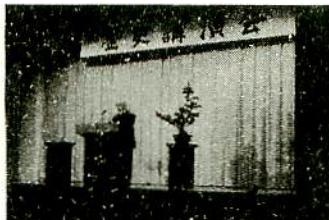
安土セミナリ四〇〇年祭

京都の南蛮寺を建てたので有名なオルガンチノ神父が、信長から土地をもらつて安土にセミナリヨを建ててから、今年はちょうど四〇〇年を迎える。カトリック滋賀県連合会(谷口正大・代表)では、

これを記念して5月25日(日)安土セミナリヨ四〇〇年祭を開催した。当日午後二時からセミナリヨ跡地で古屋司教を迎えての共同司式ミサが行われ、あいにくの雨天にもかかわらず、近畿を中心にして三百人をこえる人々が参列した。その後会場を安土町公民館に移し、同町教育委員会の主催で講演会が催された。講師はキリスト研究の権威H・チースリク師、演題は「東西文化交流の場としてのキリスト学校」。引き続き、日本に初輸入されたオルガンが設置されるなど音楽教育で名高いセミナリヨをしのんで、当時の音楽を再現しての演奏が行われた。

また、これまで安土町にはセミナリヨに関する資料が少なかつたところから、町ではその入手を切望していたが、連合会ではこれを機に、

当時の宣教師たちの報告をもとに史実をまとめた冊子「安土セミナリヨ」(三俣俊一・聖母女学院短大教授著)一五〇〇部を町へ寄贈すること



俊一・聖母女学院
院短大教授著
一五〇〇部を町へ寄贈すること

スヴェール愛徳およびキリスト教的教育修道会は、今年創立三百周年を迎えた。このよろこびと母なる教会への感謝の心をこめて、記念行事「青年のつどい」を行った。これは、明日の教会を担う青年たちが、キリストに生きるよろこびと使命をよりよく自覚し、世界に広がる教会との深い連帯性のうちに生きることを願い金画された。関西においては、6月8日ご聖体の祝日に、藤の森聖母女学院短期大学において、「つどい」がもられた。

そのメイン・テーマは、「キリストを生きる」であった。一時よりミサがささげられ、ともにキリストとその福音のために生涯をささげる司祭、修道者の召命が教会に与えられるよう祈つた。その後、カルメル会士奥村一郎師により、「わたしがために」、「召命について考える」というテーマのもとにシンボジウムに入った。四人のパネラーが、それぞれ、「日本人と修道召命」

奥村一郎 カルメル会
「司祭の使命」 内山惠介 帝受難会
「家庭の役割」 広岡洋子 主婦
「修道女として生きる」

青年のつどい、開かれる

スヴェール愛徳修道会

記念行事

になり、当日の会場でその贈呈式が行われた。連合会では、今後このように、町当局をはじめ広く社会に開かれた活動を進めることにしている。

安藤敬子 スヴェール愛徳修道会
というサブ・テーマで、それぞれの立場から召命について話し、青年たちが召出しについて考えるために、多くの示唆が与えられた。当日は百一、三十名の青年男女が参加し、「キリストを生きる」ことについて真剣に考え、祈るひと時をもつことができたことは、非常によろこばしいことであった。

結婚互助会「ばらの集い」
今年も結婚を希望する未婚男女の方々のための「ばらの集い」を企画しました。
お気軽にご参加下さい。

日時 9月23日(火)秋分の日
場所 高野カトリック教会
市バス高木町又は京都バス高野橋下車 TEL 781-1252

申込み先 各教会互助会世話人まで

会費 千円 申込と同時に納入

資格 信者又は信仰に理解ある未婚男女定員 男女共25名にて〆切

申込み先 各教会互助会世話人まで

市民の心の戸を叩く

他者の幸せのために自己を捧げる現代の聖女を紹介する映画「マザーテレサとその世界」、その監督千葉茂樹氏のマザーテラの出会いの感動の波は満場の人々の心を等しく深く打つた。ロビーに備えられた献金箱はその感動をそのまま、あらわれた。多くのように多額の喜捨にふくれ、上映純益と共に43万円余はマザーテレサのものと送られた。

この催しに漕ぎつけるまでには僅かな券を2ヶ月にわたって売りそばいた。映画、講演への感謝の電話はひきもさらず、学生は校内新聞にその感動を掲載し、多くの学校で同映画の上演を予定している。



申込み先 カトリック社会問題研究所
日時 8月22日(土)~24日(日)
場所 横浜雙葉学園
テーマ 現代社会と家庭
費用 三千円
申込み締切 8月5日

第十七回 社研セミナー
申込み先 セミナー準備委員会
TEL (03) 362-4659
〒160 東京都新宿区北新宿1-33-20

今年も歩け! ウォーカソン

教区時報では、11月3日(文化の日)に、第2回ウォーカソンを行います。今年は、小羊会や御所教会の難民の方々も参加予定で、愛の輪を広げていきたいと思います。皆様ふるってご参加下さい。詳細は次号で、

お知らせ

京都教区、ビジョン（今後のあるべき姿）を作るためのた、き台

前号(67)では特集として、教区のビジョン（あるべき姿）作りの中間報告を記載したが、そのた、き台が、6月8日各教会で発表された事と思う。然しより徹底させるために、ここに又特集として取り上げる事とした。信徒各位がこの事に深い興味と関心を持れ、よりよいビジョンを作りに各自が夫々の立場で参与される事を切に望むものである。尚、内容としては中間報告と重複する点も多い様であるが、そのまま、掲載する事にした。(編集者記)

一、ビジョン作りの動機

- (1) 見通し、反省
- (2) 探求
- (3) 具体化への試み

(1) 見直し、反省
19年前、昭和37年、それまで素晴らしい信仰の恵みと力の中に入りながら、種種の重苦しさに耐えて從つて來た教会に雷雨の後の熱く澄んだ青空の様な変化を感じさせる一大会議が、ヨハネ23世教皇によつて始められた。それが第一バチカン公会議であつた。それから十年間、私は、そこから現われて來るであろう新信仰に基づいて、神の現存又は、神の計

(2) 探求
「神の民は、全世界に満ちている主の靈によって自分が導かれている事を信じ、他の人々と一緒に、自分も参加している現代の出来事、必要、要求の中に、この

(3) 具体化への試み
それ故に、私達は教会の秘義を正しく理解し、神の期待に答えているかどうかを反省し、見直したいと思う。

(1) 見通し、反省
19年前、昭和37年、それまで素晴らしい信仰の恵みと力の中に入りながら、種種の重苦しさに耐えて從つて來た教会に雷雨の後の熱く澄んだ青空の様な変化を感じさせる一大会議が、ヨハネ23世教皇によつて始められた。それが第一バチカン公会議であつた。それから十年間、私は、そこから現われて來るであろう新信仰に基づいて、神の現存又は、神の計

二、現在までの試みと反省

A 試み

京都教区では、現代社会に大きく門を開いていつたカトリック教会の中で、夜明けの様な希望に満ちた教会の、未来への明るさと期待を持ちながら活動して来た事は事実である。その当時は、それぞれ私達が手に入れられる限りの聖書的な光、神学的な知識、時のしるしを見分ける情報を集めて種々の試みと努力がなされた。

(1) 学術的な試み
第二バチカン公会議と文書、聖書、神学の研究、勉強により、信仰の中味を見直し、深める努力をした。

(2) 教会や信徒の生きるべき姿を探る試み

B 反省

上述の様な実に多種多様な試みと努力が京都教区でなされたが、今少しつつその不充分さ、焦点のずれが所々にあつた事が解つて來た。

(1) 教会、キリスト、共同体等聖書の光にあつた姿がまだはつきり見えていなかつた。

(2) そのため一面的な理解に終り、完全的

画の真のしるしを見分けようと努める。」

(現代世界憲章11)

私達京都教区信徒は、この聖靈の働きがあるところを、深い信望愛の分合いを持ちながら皆で探つて行きたいと思う。

への前進を、目をこらし、耳をそばだて胸をときめかせながら、どんなに待ちこがれた事であろう。次々と公布される文書の中に示される神の啓示の新しい光、聖靈の働かれる教会のすばらしさ、キリストと共に復活の生命の希望の中に生きる聖マリアを含めた神の民の力強さを、身にしみて感じたのもその頃であった。

そして昭和40年12月8日、今から15年前に公会議が閉じられた時、私達は、カーテンの隙間から差し込む一条の朝日の光から世界を照らす太陽を教えられる様に各文書の中から、公会議の示す神、キリスト、教会の新しい姿を教えられ、それに答えようともあらゆる努力を惜しまなかつた。

しかし、今公会議後約15年をふり返つて見ると、上滑りしていた事、空回りした事、公会議が真に求めたものと違つたものもあつた事が解つてきた。

それ故に、私達は教会の秘義を正しく理解し、神の期待に答えているかどうかを反省し、見直したいと思う。

種々の研修会、練成会、信徒大会等を通じて、新しい光の中で福音的生き方を求めるながら、回心していった。

(3) 公会議の中で勧められた教会のあり方を現代世界の中で証しをする試み。

諸宗教との対話、平和と秩序を作る活動、世の中の不正義を福音にもとづいて正し正義をうたてる努力。人々の権利や平和を無視するものに対するキリスト者としての責任の自覚。働く人々の生活を守り、神の前ですべての人は平等である事を認める運動。聖靈による力を深い祈りの中に求める生き方。信仰を求める者となつてもう一度神の前で自分の生活を獻げる呼びかけ、等の様に、現代の社会に対してキリスト信者としてどの様に積極的にかかわらなければならぬかを問ながら回心し、教会と社会を福音によって生かしていくと行動して来た。

(4) 教会内の新しい組織作りや、従来からの創設、地区信徒協議会、連合会、小教区信徒委員会の設立等があげられる。

な把握が出来ていなかった。

(3) 各委員会、協議会等が充分その働きを
していない。

更に昭和55年1月に開かれた司祭修道
士神学生総会において検討された過去15
年間の反省においても次の点があげられ
た。

(1) 教会が社会に対してもまだ充分に開かれ
ていらず、この地の文化の受容とキリスト
の福音のこの地への受肉が不充分である。

(2) 自己、教会、社会の福音化のため、社
会への働きかけが不十分であり、祈りに
支えられた宣教、公会議の精神に基づく
けられた福音宣教の努力が足りない。

(3) 信徒リーダーの養成の努力が不足して
いる。司祭も信徒も、共同体意識を更に
養い、司祭を中心主義から脱し、神の民と
して共に自らの責務を果しながら前進
する姿が欠けている。

三、ビジョン作りを進める 上でどうしても考慮し てほしい事。

第二バチカン公会議のメッセージを学
び、京都教区での15年間の歩みを反省し
て後、神の呼びかけに応えていくために
私達は、次の事を皆で大切にしていかな
ければならないと思うにいたつた。

- (1) 私達が生きている社会と、その中での
教会の現状認識を正確にする。
- (2) 福音が要求する様に、一人一人が例外
なく無条件に大切にされる様に心する。

* アジア諸国と日本の間には、いかな
く文化を知っているか。
* 自分が目ざすアジア諸国との関わり

(1) 「私達が生きている社会とその中での
教会の現状認識を正確にする」

現代社会は、種々の危険な要素を持つ
ている。平和に対する脅威、戦争への傾
斜、人間の生命と権利の無視、神の否定
経済的不安定等。この様な現代社会の中
で、神の國のために私達は何をなすべき
なのか、何をすればよいのかを考える。

現代世界の、人間と神に対する挑戦の
中で、たゞ個人的に安んじて信仰に帰依
しているでは足りない。私達の信仰を
自分と社会とのつながりの中で毎日、見
直して行かねばならない。そして世界の
特にアジアの多くの貧しい人々の上で、
豊かな生活をしていく私達先進国のキリ
スト信者の生活を福音に照らして反省し
ていく事も必要である。

(2) 福音が要求する様に、一人一人が例外
なく無条件に大切にされる様に心する。

「現代人の喜びと希望、悲しみと苦し
み、とりわけ貧しい人々とすべて苦しん
でいる人々のものは、キリストの弟子達
の喜びと希望、悲しみと苦しみである」

(現代世界憲章1)

a 人間が真に大切にされているか。

b あなたの家庭の中で、学校の中で、会
社の中で、小教区、及びグループの中
で、人間を大切にする事が話し合われ
ているであろうか?、どの様に?

c 競争社会の中で、勝ち進めない弱い人
人を見捨てていく様な事が、あなたの
会社で、学校で、小教区及びグループ
の中ではないだろうか?

昭和55年6月8日

ビジョンたまき台準備グループ
田中司教、

村上真理雄

齊木嘉作
越知健



は?

b 私が住んでいる日本の国とは?
* 日本の政治、経済、社会、文化、宗
教、教会についての知識。

* 現在の日本の状態と私との関わり。

* 自分の目ざす日本社会とは。
* 現在の日本の状態と私との関わり。

たが、一所懸命キリストに近づこうとし
た事は確かである。そして、このキリスト
はこれから京都教区の努力の試みの中
にも、その照らしの靈によって働きつ
づけてくださる事を信じている。信徒も
15年前老境に若返りの泉でも汲むかの如
く公会議のメッセージを受けとった人は
既に神のもとに行かれたとしても、その
頃壯年だった人は今深くた、えられた信
仰と人生の恵みをもって、青少年だった
人は今社会の機構を動かす知識と体験を
もって、幼児だった人は満ちあふれる力
と恐れを知らない未来への希望をもつて、
今幼児は汚れない微笑をもって、私達
のこのビジョン作りに積極的に加わつて
くださる事を信じる。そして、神がいつ
も、京都教区の司教、司祭、修道者を含
め信徒のすべてにゆたかな祝福を与えて
下さる様心をこめて祈つていただきたい。

特に私達の祈り、生活のすべての源泉で
あり、活動の中心であるミサ聖祭の中で
一致しつ。

昭和55年6月8日

田中司教、

村上真理雄

齊木嘉作

越知健

補足解説(I)

ことを述べさせていただく。

(一) 何故ヴィジョンを作るのか?

上述の通り、ビジョン作りのたたき台を掲載したが、準備委員の一人越知師にまず、二つの問題について解説をいただき、又編集子も読者の一人として、たたき台を読ませていただいた時、その精神的バックボーンを補足説明させていただく事とした。若し参考になれば幸いである。御存知の様にヴィジョンとは、見る(ヴィデーラー)と云う動詞から来ている。現代に生きている私達が、見なければならぬもの、見つめねばならないものが何であるか、現在と未来とそして過去の良きもの(伝統)を見つめる。自分と自分の内部を見つめる。神と世界を見つめる。教会と社会を見つめる、キリストを信ずる人と信じない人々を見つめる。そしてそこにすべてより良き事を目ざしていく。祈りの中に愛の心をもつて、希望の中に信仰の心をもつて見つめて行きたい。そして見つめて心に留めた事を口に行ひに賢明に表わして行く事。そしてそれを共に探して行く様にしたい。

何故ヴィジョンを作るのか?

教区時報編集部から電話があり、先日発表された「ヴィジョン作り、たたき台」を、次の二点を考慮にいれた上で、もつとほつきりと説明するようにと言われた。その二点とは、(一)何故ヴィジョンを作るのか?
(二)ヴィジョンを作つてどうなるのか?従つてこれにそつて、卒直に考えている

こと。このことについては、もう何度もいろいろな人が、いろんなことを言つてくれたり、書いてくれたと思つていた。それで、いろいろ頭をひねりまわすより教区時報やグッドニュースレターの中での二つの主張を引用させていただく。田中司教は「……多くの困難があつたとしても、やはり私は京都教区民が互いに手をつないで、社会の福音化のために尽力する一つのヴィジョンを作りたい」と言つておられる(教区時報67号)。瀧野神父は「ビジョン作りは、第二バチカン公会議以後の教会の姿勢を反省して、今私が何をなすべきかといつたことを探そうという試みである」と言う(グッドニュースレター83号参照)。またビジョン作り中の間報告のなかみは、「教会自身の刷新と現代社会の福音化の困難さと緊急性を見るにつけ、もつとみんなが力をあわせねばならないのではないか」ともある。大変かたい文章で書かれているので、すんなりと入つて来ないのかも知れないが、言つてみれば、ごく当然のことにはすぎない。確かに今迄何度もこのようなことはやつて来られたし、今もあらゆるところでの反省と刷新への動きは続けられている。どの研修会に行つても、黙想会に参加してもしかりである。またいろいろなグループや集まりでも、福音を分ちあいながら、あるいは共に活動に汗を流しながら、自己と社会と教会の福音化を目指しての努力が続けられているのである。ざつく

ばらんに言うならば、「ビジョン作り」がねらつてているのは、このいろいろのところでの福音を中心とした反省と努力の大集合なのだ。では何故大集合するのか。それはお互いの体験に聴きあいながら隣人の努力に眼をみはるためだ。もちろん自己満足しあうためではないことは言う迄もない。この隣人達の努力は決してうつくしく聴くに甘美なものではないだろう。しかし人の心をとらえる力強い響きを持つて迫つてくるものと思われる。そしてこれを互いに大切にし育むもところから新しい力を生んで行く。今迄の力の源に、新しい力の源を加えて、その力を倍にするのだ。

(二) ビジョンを作つてどうなるのか?

ここでかたい話しをする前に、一つホヤホヤの体験を紹介しよう。つい数時間前、私はフランスはトゥールと言ふお城のたくさんある町からやつてきた青年と近所のレストランで食事をしていた。彼は日本に二週間前に着き、東京、名古屋、大阪、神戸とまわつて京都にやつてきた。長らく貯金をして、深い関心を持っていた日本人の青年達の動向をさぐりにきたのである。別にスパイでもなんでもないのです:念のために。テーブルにつくや否や、小学生が本当にカトリックの司祭であることをたしかめて(?)やおら話しだした。彼はなんと涙を流さんばかりに、厚い壁のとりこわし作業をみんなでやつてみることこれがビジョン作りのねらつてゐるところなのだ。このわたしたちの動きの中で神様は其に働いてくださるであろうし、わたしたちを励ましてくださるのである。

信徒として出来る事 例えは

昨今、信徒使徒職が叫ばれる折柄、
その具体的な活動例を教理センターの松
本三朗師に書いていただいた。参考にさ
れる様におすすめする。

一、キリストの予言職に参加する

(教える奉仕職)

家庭

○近隣家庭(布教、協力)

○家庭会、隣り組運動(参加、協力)

○親のための活動

○婚約者のための結婚準備

○マリッジ、エンカウンター

○若い夫婦の世話

○家庭を人々に聞く

○家庭の祈りの集い等

○学校教育への参加、PTA活動

○教会学校への協力(教師、手伝い等)

○教会の図書

○青少年教育(勉強、信仰、スポーツ、技能等)

○青少年の友達となる

○青少年の友達となる

○教会の機関誌

○カトリック新聞

○勉強会(聖書、神学 etc)

○宗教教師(カテキスト)となる準備

○障害者、障害児のために

○エキュメニズム(参加、協力)

○未信者の友人

○印刷物

**二、キリストの王職に参加する
(仕える奉仕職)****地域共同体**

○近隣の人々との協力

○市民運動への参加

○家の開放

○同和問題への参加協力等

○指揮

○聖歌隊

○オルガニスト、ギタリスト等楽器

○フォークミサ

○指導

○聖体奉仕者

○病人、老人等の訪問

○自分の専門職業で無料奉仕

○各種活動への参加、協力

○各種役員

○新しく人の歓迎

○遠ざかっている人への配慮

○事務、印刷、郵便等の係

○図書

○教会の維持、管理、營繕

○病人、老人、囚人等の世話

○障害者への配慮、盲人等への世話

○青少年、児童福祉

○正義と平和

○同和問題

○カトリック社会理想の研究

○公害問題等

○カトリック社会理想の研究

○公害問題等

○カトリック社会理想の研究

○公害問題等

○カトリック社会理想の研究

○公害問題等

○カトリック社会理想の研究

○公害問題等

○カトリック社会理想の研究

○公害問題等

○祭壇、香部屋(準備、管理、教え)

○朗読者、先唱者、解説書
○案内係
○典礼の研究会等(主催する、参加する)

○聖歌集、聖書典礼、祭具

○音楽

○聖歌隊

○オルガニスト、ギタリスト等楽器

○フォークミサ

○指導

○聖体奉仕者

○祈りのグループ

○黙想会、練成会(企画、主催、参加)

○生活

○家庭のミサ、典礼、祈り

○祈りのグループ

○黙想会、練成会(企画、主催、参加)

○生活

人事移動久居教会 チャーチ・ボラス神学生
草津教会 ジヨン・マコリー神学生は
神学最後の勉強のため帰国

小山教会 アルフォンソ師休暇のため、

七、八月は田中司教が主任司祭
草津教会 ライリー師病氣療養のため帰
国、主日のみ斎木師手伝い

田中健一京都教区司祭

奥村一郎師カルメル会

認可

新任 京都カトリック教理センター所長

松本三朗師

御葬儀 一切の業務を厚く皆様に
尽くす事をモットーに奉仕させて
いただきます。**広告についてのご案内**

時報に広告掲載を希望される方
は、編集部までご連絡ください。
掲載は原則として、1ヶ月契約
(年6回)とし、1回当りの掲載
料は1万円です。また半スペース
5千円の広告も受けます。

京都以外の方もご利用ください。

〒604 京都市中京区河原町三条
カトリック会館5F京都教区時報編集部
TEL 075(211)3768**祈祷書「祈の友」**A6判68ページ
カルメル会編
1500

フランクルの著作だったか、アウシュピツツの強制収容所のような状況においてさえ尚実現可能な価値として「態度価値」があるということを書いていたと思う。それは何かを「する」ことによる価値ではなく、人間の「在り方」に基づく価値である。人間の普通の状況ではこの両者が密接な関係を持ちながら併存している。その人の神の前での在り方がその人の行動となって現われてくるし、また実践を通して自分の在り方を問い合わせるといった相互作用がある。ところが現代社会の忙しさの中でもすれは実践に追われて、それをやつている自分の根本的な姿勢を問うことが疎かになりがちではないだろうか。その結果、自分のやったことの効果や、成功、不成功のみで自分の生き方を評価してしまうことがしばしばあるのではないか。

自分が神の前にどう在ったか、またどう在るべきかを絶えず聞いていくことが祈りである。ルカ福音書十章のマリアとマルタのエピソードを思い起しながら、私たちの業が單なる人の業として空まわりに終ることなく、神の業として豊かな実を結ぶことを祈りたいものである。



在り方を問う

西院教会の忙しさの中でもすれは実践に追われて、それをやつている自分の根本的な姿勢を問うことが疎かになりがちではないだろうか。その結果、自分のやったことの効果や、成功、不成功のみで自分の生き方を評価してしまうことがしばしばあるのではないか。

西院教会の忙しさの中でもすれは実践に追われて、それをやつている自分の根本的な姿勢を問うことが疎かになりがちではないだろうか。その結果、自分のやったことの効果や、成功、不成功のみで自分の生き方を評価してしまうことがしばしばあるのではないか。

西院教会



小教区の頁

西院の総師大天使聖ミカエルに奉獻された教会が西院の地に誕生したのは昭和24年のことで、教会誌を繰くと25年の聖母被昇天祭の日に初洗礼が行なわれ、26年3月仮聖堂、翌年に司祭館が建設されたことが伺えます。従つて京都市内では河原町、西陣に次ぐ古い教会ということになるのですが、古いといつても漸く31年目を迎えたばかりの将来楽しみな教会です。30年余の歴史の中では36年2月5日二十六聖人の祝日に新聖堂が献堂されたこと、41年にメリノール宣教会から邦人司祭の司牧に全面的に切り替つたことが大きな出来事として思い出されます。

それが西院教会の靈的的基礎をつくつて下さったメリノール宣教会と歴代の神父様方に、改めてこの機会に深い敬意と感謝を申しあげます。

さて、どの教会にも時期によつて教会の中心勢力の変遷といったことがあるの

ではないかと思いますが、西院の場合もレジオマリエを中心に行なうが、西院の場合は、西院の街頭募金を行ない、総額八十二万円余の净財を上智大学難民の係と奈良御所教会に届けました。これはスカウトの協力参加も得られ、スカウトとの有効な共同活動ともなりました。このほか集まつた小学生を含めて世代の連がりとバランスが程よくでき、名会各層がそれぞの独自性を生かしながらその間の調整がうまくとれ、全体としてのまとまりが今までになくできかけております。このような望ましい状態になつた背景として、司祭の靈性と指導性に対する信徒の信頼・敬愛をベースに司祭と信徒の関係がうまくかみ合つてること。聖体とゆるしの秘跡を受ける多くの機会に恵まれて、司祭と信徒の関係が比較的多くカッブルパワー或いはファミリー・パワーが力を発揮していること、教会学校活動が熱心に行なわれ次代の信者の養成に教会全体として注力していること、岡神父時代に整備された信徒会組織が軌道にのり円滑に機能していること、教会財政が安定していることなどを挙げることができます。

教会活動としては一応内部体制固めが整つたとの判断の上に立つて、今年からは信者のエネルギーを教会内のみに留め、外へ向つて主に宣教と愛の奉仕活動に生かす方向を打ち出し、月の第四主日は教会全体としての活動日におけることにしておりります。まだ何をなすべきかまた何ができるかについて手探りの状態ですが、この主旨に沿つて3月と6月に計3

回、文字どおり教会ぐるみでインドシナ難民救援の街頭募金を行ない、総額八十二万円余の净財を上智大学難民の係と奈良御所教会に届けました。これはスカウトの協力参加も得られ、スカウトとの有効な共同活動ともなりました。このほか8年前から始めている廃品回収活動(その益金はカリタスジャパンその他に寄付)の強化、教会から離れている信者の家庭訪問、病人訪問、老人福祉施設に対するボランティア活動、子供会援助、地域社会に対する布教広報活動の活発化などを実施し或いは今後に予定しております。また今年もスカウトと共に催したバザーは、身体障害者の方のための教会施設建設資金づくりを一つの目的として行ない成果を得ましたが、このことも開かれた教会を志向し外向きの姿勢を多少なりとも打出了うとしたものです。

この紹介記事に出ているボーアスカウト、ガールスカウトは共に教会と親密な関係にある団体ですが、特に教会を育成団体として活動の拠点としているB.S.京都第十四團はCBSに属し、その育成会長には信徒が当り使徒職の大切な働きの場となつてゐることも、西院教会を考える場合に忘れてはならないことです。

現在西院の教会は二人の司祭に恵まれております(但し、松本三朗神父は教理センター主任)。私達は二人の司祭を通じて第一バチカン公会議後の教会の新しい息吹を感じとりながら、神の國のしるし道具となつてキリストから召し出された使徒職に専心して参る所存です。

「刷新と福音化の困難さ」を自覚して「皆が力を任せねばならない」と云う動機からヴィジョン作りが始まられたことに感謝します。郵送の印刷物を熟読しながら苦労のほどを思つても一抹のもどかしさを感じました。ふだん行き来もない遠くの親戚からの便りみたいで実感もぐらの寝言

最近伝え聞くところによりますと、地上では何かビジョン作りとか、何んでも私達のために一生懸命、考え、瞑想し、祈りつつ励んでいて下さると聞き、感激しております。それについてもぐらの寝言

難解で、知恵もぐらに伺いますと、私達が立派に信仰

光さす窓に向いて、ささやかん

文字の言葉が少々

の方々だけでなく、地下の私達にも、一報願いたく。但し私達としても反省しているでござります。私達の中には、そんな事考えて下さっている事すら知らないものもおりますし、何しろ余り勉強もせず、ただ私達特有の鋭い感と云う奴で、

まして誠に申し訳なく思つております。最近私達の救い、或いは生きがいと申しましようか、はた又、太陽（それは私達の目をくらませ、不都合もあり、余り見たくもないのですが）の光（それを福音とか聖霊の導きと申されるそうですが）

そういうものを教えて下さるとか申し、私達の仲間も出かけた様ですが、も一つ理解しかねる面も……。

ビジョン作りとやらよく小耳にはさみます。司祭修道者懇談会で出された反省案——教区事務局員一名が各ブロックに常駐して共に「働き、縦と横のパイプ役となり、その地で得た経験と実情を司教座に持ち寄つてヴィジョンを生み出し、共通の理解のもとに実践してゆけないものでしょか。日本の社会は学説や理論だけではなく義理と人情の人間関係で動くのです。

勝山富久（三重）

私たちは聖書から学び、主日の説教も聞き、公文書からも「福音宣教」からも、司教様からのご要請とご指導からも——

由なるべくわかり易く具体的にたのみます。花木英子（三重）

中間報告にある過去15年間の四つの試み、三つの反省は肝に銘じたい。社会と自分との福音的関わりー社会的な諸活動を通じた信仰の証しを目指す若い世代とのキヤップを、いかに埋めるかが課題だ。

吉田昌代（京都北部）

由良定子（京都北部）

公会議後の正しい知識を持たない為に誠実さから逃げています。新しい時代を生き抜く神の民として、全ての人が参加できる明るい心生活を考え直される様、「ビジョン作り」、大いに期待しております。

奥田朝子（高野）



—ひとつこと— ヴィジョン作り

「刷新と福音化の困難さ」を自覚して

「皆が力を任せねばならない」と云う動機からヴィジョン作りが始まられたことに感謝します。郵送の印刷物を熟読しながら苦労のほどを思つても一抹のもどかしさを感じました。ふだん行き来もない遠くの親戚からの便りみたいで実感もぐらの寝言

最近伝え聞くところによりますと、地上では何かビジョン作りとか、何んでも私達のために一生懸命、考え、瞑想し、祈りつつ励んでいて下さると聞き、感激しております。それについてもぐらの寝言

難解で、知恵もぐらに伺い

ますと、私達が立派に信仰

何となく、こうあるべきだ、そうあつてほしい、これはいけないと云う事は感

自分のしたい事を決める事だと思つてい

る者もあります。そのところ、もう少し

はつきりお教え願いたく。誠に口はばつ

たい事ではございますが、地上にお住み

が伴わないのです。それは共通の事柄

（ヴィジョン）について「共に学び、共

に反省し共に働く」交りに口頭恵まれて

いないせいでしょうか。そこで一つの提

案——教区事務局員一名が各ブロックに

常駐して共に「働き、縦と横のパイプ

役となり、その地で得た経験と実情を司

教座に持ち寄つてヴィジョンを生み出し、

役のでしょか。日本の社会は学説や理論

だけではなく義理と人情の人間関係で動く

のです。

丹波 I M

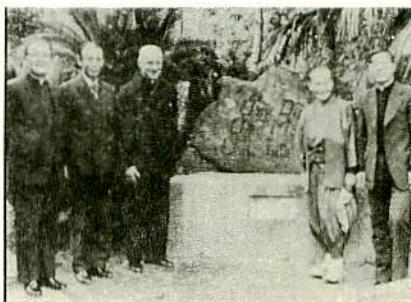
多過ぎて消化不良気味です。ヴィジョン作りだからと云つて余りむずかしく大げさに氣をもたせないで下さい。私たちに出来ることをやさしい平易な言葉で具体的に示してください。それによつて、お互に話合い、反省もしたり、現在実行していることを認めたり、困難と思うことを祈りのうちに人びとと力を合せて実行します。神父様のお言葉上手なお説教ではなく、日々宣教司牧にご苦労なさつておられる後姿を尊敬しています。

大塚勝洋（京都北部）

法家五の対話

憶出あれこれ

大本教学研鑽所々長
人類愛善新聞社々長 伊藤栄蔵



(ビネドリ師と共に筆者右二人目)

柩機卿が亀岡の大本本部へお越し下さったのは一九七六年の十月でした。拝殿などもささやかな建物でありますのに、純日本式の木造の趣きを殊の外お褒め下さいと存じます。

柩機卿が亀岡の大本本部へお越し下さいました。お茶を召上つて頂いたことなど、忘れ得ぬなつかしい憶出でございます。

この一文を書きはじめるに当つて、まず憶起することは、ビネドリー柩機卿の帰天です。如何なる神さまのお思召しか知りませんが、哀惜に耐えませぬ。カトリックのみなさまは元より、ビネドリー卿を媒介として、カトリックと心を通わせた。世界の多くの宗教の方々と一緒に、つつしんでそのご冥福をお祈りいたしました。

柩機卿が亀岡の大本本部へお越し下さったのは一九七六年の十月でした。拝殿などもささやかな建物でありますのに、純日本式の木造の趣きを殊の外お褒め下さいと存じます。

この一文を書きはじめるに当つて、まことにか嬉しくお聴きになつたことではござります。その事を教皇さまの代理ともいふべき柩機卿のお口から仰有つていただいたことは、何よりの喜びであり、それなりの営みをして来たことは事実でござります。その事を教皇さまの代理ともいふべき柩機卿のお口から仰有つていただいたことは、何よりも何よりも、出口王仁三郎聖師は、そのお言葉をどんなにか嬉しくお聴きになつたことでしょう。しかしその事よりも何よりも、出口聖師のもつともお喜びになられていることは、第二バチカン公会議以来、カトリックを主軸とする「宗教の対話」の、全世界的な力強い躍進でございましょう。

聖師は、世界の恒久平和を実現するためには、有形無形の障壁を除かねばならぬ、有形の障壁は国境と軍備であり、無形の障壁は民族間、宗教間の敵対心である。まず無形の障壁から除かねばならぬとして、宗教間の提携を唱えたのです。今日はキリスト教内のエキユメニカル運動だけでなく、広く異宗教が結集して、平和のための会議や行動を起こし、更に教義の相互研鑽、共同祭典というようなところまで進みつあることは、洵に素晴らしい事実であり、これらはみな直接

田中、尻枝両神父さまの介添えで、全く心をきかない「対話」がつづきましたが、その中で柩機卿が「宗教間の対話の促進については、大本さんが大先輩です」と仰有つて下さったのには、私たちが感動いたしました。「大先輩」などとは洵に恐入つたお言葉で、世界何億の信徒を持たれるカトリックに比べて、大本などは豆粒にも当らぬ微小な存在ですが、ただ、「宗教の対話」が今日のように呼ばれる遥か以前——今より六十年も前から——万教同根とか世界宗教連合などを唱えていたしました。

それなりの営みをして来たことは事実でござります。その事を教皇さまの代理ともいふべき柩機卿のお口から仰有つていただいたことは、何よりも何よりも、出口王仁三郎聖師は、そのお言葉をどんなにか嬉しくお聴きになつたことでしょう。しかしその事よりも何よりも、出口聖師のもつともお喜びになられていることは、第二バチカン公会議以来、カトリックを主軸とする「宗教の対話」の、全世界的な力強い躍進でございましょう。

聖師は、世界の恒久平和を実現するためには、有形無形の障壁を除かねばならぬ、有形の障壁は国境と軍備であり、無形の障壁は民族間、宗教間の敵対心である。まず無形の障壁から除かねばならぬとして、宗教間の提携を唱えたのです。今日はキリスト教内のエキユメニカル運動だけでなく、広く異宗教が結集して、平和のための会議や行動を起こし、更に教義の相互研鑽、共同祭典というようなところまで進みつあることは、洵に素晴らしい事実であり、これらはみな直接

間接に、バチカンからの流れに支えられています。

私が初めて教皇さまに謁見をいただけたのは一九六九年の夏でした。俄かな申し出を持てお計り下さって、カステル・ガンドルフでの大謁見の場に特別席を興えられたのです。各国から集まつた満堂の参拝団に対し、教皇さまは次々と国別に、さまざまな言葉で祝福と激励を興えられる。参拝団からは抑え切れずに、「ビーバーバーボ」の絶叫が湧上る。私はその時「宗教」という巨大な生物の動きでしたが、都合よく大主教アテナゴラを眼のあたりに見た思いをしました。

私はそれからイスラエルへの途中、イ

スラエルへ廻り、それまた前触れな

ス一世にお会いすることができました。

私はそれからイスラエルへの途中、イ